

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己犠牲の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切にしたい教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師の間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）が、子ども達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけではなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備を行う。また、各関係機関との連携を取りながら、きめ細かな教育・保育を展開して行く。
- ・小学校へのスムーズな接続と、アプローチカリキュラムの積極的かつ計画的な導入による教育の質の向上を図って行く。就学前に身につけたい事を明確にし、今後も園での取り組みだけでなく、保護者の理解・協力も得ながら進めて行く。
- ・安全な保育環境の整備と見直し、事故・ケガの防止に最大限努める。また、防災訓練や避難誘導訓練を通して、保育者・保護者・園児が非常時に冷静に行動出来る様、その内容についても改善を図っていく。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）を保育者がよく理解し、引き続き、日常の保育の中で積極的に「体作り」に取り組んで行く。また、いろいろな運動を取り入れて行く事で、子ども達が飽きずに活動に取り組める様工夫する。
- ・野菜づくりや給食などの取り組みを通して、食べ物への感謝の気持ちを持ち、みんなで楽しく一緒にの食事をする食習慣を身に付けるよう心がける。
- ・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝え、地域社会で生活する人々、働く人々を知る機会を積極的に設け、出来る範囲で関わりを持つ活動を展開して行く。
- ・音楽鑑賞・芸術鑑賞などの情操教育の機会を設け、実際に子ども達が見たり、触ったりする事で、より興味・関心を深める事が出来る様取り入れて行く
- ・情報提供について保護者の要望をくみ取りながら、SNSなどを利用し、スピーディーな発信が出来る環境を整える。
- ・子育てに対する保護者の悩みや不安を真摯に受け止め、一緒に考え、子ども達の健やかな成長の手助けとなれる様、引き続き体制を整えていく。また、相談しやすい雰囲気作りを心がけて行く。
- ・計画的に園内研修を取り入れながら、保育者としてのスキルアップをはかる。各自の研究課題を明確にし、リモート研修などを利用しながら保育技術の共有や継承、連携強化の徹底に努める。また、リモート研修等を有効に活用し、保育者の専門性の習得、園全体の保育の質の向上をめざす。
- ・働き方改革を推進させる上で、職員の勤務体制の見直し、ICTを積極的に活用する。職場内の働き方の問題点を検証し、職員が働きやすく、やり甲斐のある職場環境作りを目指す。また、保育や行事の多角的な見直しにより、保育者一人ひとりが、心に余裕を持って保育にあたることで、子ども達に良い影響を与えることが出来る様に進めて行く。
- ・保護者が安心して子どもを預けられるよう、職員のスキルアップや環境整備を図る。
- ・ちびっこ教室や園舎開放の体制および内容の見直しを図り、未就園児の入会の促進と、園児の増加に繋がるための地域への情報提供を積極的に行い、周知を図る。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
<p>1 保育の計画性</p> <p>保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や日々の保育を見直し、園全体での取組みを増やし、子ども達が楽しく園生活を送れる事を心がけ、工夫しながら取り組む事が出来た。 ・一人ひとりの子どもの心に寄り添い、気持ちを受け止め、安心して生活できる様に配慮した。 ・保育環境の構成では、安全面での配慮は見られたが、子どもたちが主体的に遊べる環境構成や、季節の変化に応じた環境構成への取組みは、まだまだ改善の余地があり、個々の取組みだけでなく、園全体で取り組んでいく必要があると感じた。 ・本園の教育の柱となっている宗教教育の取組みに対して、週一回訪問する聖堂でのお祈り、主任司祭や園長からの宗話の時間は、心を落ち着かせる場として有効であり、キリスト教理念を継承していく上でも大切である。しかしながら、日々の保育の中で、『神さまの事』を伝える事が難しいと感じている保育者もおり、司祭による職員勉強会もしっかり取り組んでいく必要がある。 ・運動教室は、昨年度までは月1回だったが今年度より週1回の実施とした。子どもたちの動きを見ても、経験の積み重ねの大切さを実感。来年度も、引き続き取り組むよう計画していく。
<p>2 保育の在り方、幼児への対応</p> <p>安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育中や自由遊び時の事故やケガの発生は、これまでの経験が生かされてきていて大きなケガにはつながっていない。しかしながら、ほんの一瞬に起こってしまう子ども同士のトラブルやケガ、予測のつかない行動に対する対応の甘さが時折見られた。今後も遊具、設備等の安全管理や子どもたちの日常生活の様子を把握し、適切な対応をしていく必要があった。 ・個々の園児の発達の姿や課題、保護者への相談・報告等について、職員間の情報を共有してきめ細かな対応を心がけた。 ・1号認定児の預かり保育は、長期休み期間、また行事後の振替休日などにも行い、保護者のニーズに対応出来るよう実施した。
<p>3 保育者としての資質</p> <p>保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの職員も愛情を持って子ども達に接し、自分自身も保育を楽しんでいる。 ・子ども達の良き手本となる様な言動を心がけ、子ども達に関わっている。ただ、一人ひとりの保育の専門性や資質の向上、キャリアアップの面では、保育のマンネリ化や、新しい事にチャレンジする姿勢が希薄になっているように感じる。 ・保育者間の連携では、行事等は行事計画を共有し行ってきたが、日常の保育の中ではクラスの担任と補助の連携はとれていても、全体での情報共有に至らなかった事もあり、「報告、連絡、相談」など基本的なマナーの大切さを感じた。
<p>4 保護者への対応及び家庭との連携</p> <p>園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期の面談を通じ、保護者に子どもの成長の様子を伝え、家庭との連携を深めるよう取り組んだ。 ・保護者との関わりの中で、電話での対応や文書でのお知らせなど苦手意識がある職員もいる。 ・緊急連絡は公式LINEで発信。昨年の反省を踏まえ、LINE保護者登録を複数名可とした。発信内容は、ほぼ100%保護者に伝わっている。 ・園からの情報提供は、まだ印刷物が主になっているが、今後SNSを使った発信も検討していく必要がある。 ・インスタグラムの配信は、行事や日々の保育の様子を保護者に伝えることが出来、保育理解や安心に繋がっていると思われる。今年度は、担任が日々の様子を発信することになっていたが、なかなか時間が取れず、発信が少なくなってしまった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育や子どもの様子などに関する保護者からの問い合わせや、連絡事項には迅速な対応が必要となるが、担任だけのやり取りで終わってしまい、職員全体に情報が共有されていない場合もあった。
<p>5 地域社会との連携</p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神居岩公園の花見、増毛町の果樹園でのサクランボ狩りやリンゴ狩り等自然の触れ合いを大切に、また「ちゃいるも」の訪問やスポーツセンターでの体育教室など地域の施設を訪れることができた。 ・今年度、初めて振興局主催の木育教室を実施。留萌の森・樹木について学ぶことができ、関心を持つ機会となった。 ・就学に向けて学校にも訪問し一年生との交流も行えた。スムーズな就学への移行の取り組みとして学校給食体験は給食センターの協力により10月から月2回実施できた。 ・国道での交通安全旗の波作戦や春や秋の交通安全運動に参加したことは子どもたちにとっても意識を高める良い機会となった。 ・子育て支援として、園舎開放日を設け年齢を問わず遊び場を提供したが、参加人数は少なかった。 ・未就園児対象のちびっこ教室は、保護者（母親）の就労が増加している事から、園児の弟妹であっても低年齢から保育園に通う子どもも多く、人数は減少傾向にある。
<p>6 研修と研究</p> <p>研修・研究を積極的にを行い、専門性を高める努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に関してはオンラインが主流となり、参加しやすくなった。反面、実技的なスキルを高める研修も必要であると感じた。 ・リモートで参加することで、今までは参加していなかった内容の研修にも参加する事が出来た。しかし自ら進んで専門性のある研修に取り組む姿勢が感じられず、今後は時間を割いて取り組む必要性を感じた。
<p>7 情報公開</p> <p>保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園だより・クラスだより、また必要に応じて出されるお知らせで家庭との連絡をはかり、幼稚園の様子などを情報公開する様に取り組んでいる。 ・感染症・伝染病等の発生時には、状況を随時LINE等で知らせ、保護者に注意喚起を促すようにした。 ・昨年度の学校評価の結果や危機管理マニュアルは、学園ホームページで閲覧出来る様になっている。 ・日常の保育の様子や園児のみの行事の様子など今年度もInstagramでの配信を行い、多くの保護者が閲覧しており、良い評価をいただいている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）の取り組みとしては、引き続き宗教指導の司祭による月に一度程度の「宗話の時間」を実施している。また司祭不在の週には、園長が宗話を行い一層の心の教育に力を入れている。司祭による保護者対象のお話し会（月一回程度）は、残念ながら参加者がいないことが多かった。 ・特別な支援を必要とする子どもだけでなく、全ての子ども達に目が行き届く様、必要な人材を確保し、全てのクラスに補助教諭を配置し、きめ細かい保育を行えるよう努めた。 ・小学校へのスムーズな接続に関しては、スタートカリキュラムを見据えて、幼稚園のうちから接続を意識した保育を取り入れるように計画しているが十分とは言えず、今後は、学校との連携を含めアプローチカリキュラムを具体的に明確化し、保育に組み込みながら計画していく必要性を感じた。 ・すべての子どもたちに目が行き届く安全な保育環境の整備を心がけているが、突発的な事故やケガ、また子ども同士のトラブルによるケガは日常的にいつ起きるか予測できない事ではあるので、日頃から子どもたちの様子を把握し、施設の安全点検を行い、今後も職員全員での見守り、事故防止に努めていくことが重要であると思う。

- ・給食は、みんなで楽しく一緒にの食事をする食習慣を身に付けるとともに、野菜育て等の取り組みと合わせ、好き嫌いが減り、色々なものに挑戦するなど、よい効果が出ている。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）の改善のために、運動教室を行なっている。昨年度までは、月1回だったが今年度より週1回とし、担当教諭がカリキュラムを作成し、年齢にあった指導を行なった。体幹を鍛える運動（動物の模倣運動等）など、積み重ねの大切さを感じたため、来年度も指導内容をもう一度見直しながら取り組んでいく。
- ・職員間の連携強化、情報共有の徹底を図るための方策を、ICT などを取り入れ充実させることが重要であると感じた。
- ・地域の方々との交流では、勤労感謝の職場訪問等働く人々を知る機会を設けた。またその縁で、幼稚園を訪れて下さる企業もあった。今後はもっと積極的に留萌を知る機会を作っていくことが必要と感じた。
- ・音楽鑑賞や演劇鑑賞など、芸術に触れる機会を持った。
- ・今後は、個人研究目標の設定や、自ら研修に参加し専門性を習得できる機会を増やし、園全体の保育の質の向上を目指す研修計画の作成が必要と感じた。
- ・職員の働き方改革を推し進めるよう努力はしているが、行事前の残業や持ち帰りの業務は減らない現状である。もう一度精査し個人の負担を減らす効率的な業務の見直しを図る必要性を感じた。
- ・認定こども園になり、2号認定児の保育日、また1号認定児の預かり保育に関しては、行事振替日など就労する保護者のニーズに合わせて行った。

5. 学校関係者の評価

1. 『保育の計画性』に関しては、「満足」の評価をいただいた。

- * 「1日の流れ、週間、月間の流れが明確で、子どもたちも安心して園生活を送ることができていると感じる。」 「季節や年齢、発達に応じた日々の作品や歌など、創意工夫されていると感じる。」 「運動教室の回数が増え、子どもの運動能力の向上を感じた。」とのご意見をいただいた。
- * 宗教教育について「【おいのり・しんせつ・がまん・ありがとう】と子供たちにもわかりやすい表現を用い教育目標で述べられている事項を伝えており、基本となる【キリスト教の精神と理念】に則ったものだと評価できる。」 「お祈りの時間は心を落ち着かせることにとても有効だと感じた。」 「カトリック幼稚園の職員としては、保育者としてのスキルだけではなく、キリスト教への理解と実践は不可欠であると考えている。」とのご意見をいただいた。
- * 環境を構成する上で、「安全面への配慮をしつつ、一人ひとりのお子さんのニーズに添えていけるように体制や環境の工夫などに園全体で考え取り組まれていくことを今後も期待している。」とのご意見をいただいた。

2. 『保育の在り方及び幼児への対応』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

- * 日常の保育の中で、「ちょっとした怪我でも、きちんと報告してもらえてよかった。」 「先生方の情報共有がしっかりできていると感じている。」 「保護者からの訴え、疑問などを真摯に受け止め対処していただいたことは評価できると思う。」とのご意見をいただいた。
- * 預かり保育について「1号認定のお子さんや保護者のニーズにも対応し、預かり保育に柔軟に対応できていたことを高く評価する。」とのご意見をいただいた。

3. 『保育者としての資質』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

- * 「子どもが安心して幼稚園生活をおくれている事が何よりも親として安心できる。」 「子どもたちの個性や特性を尊重しつつ、肯定的な言葉で子どもたちと関わっていただいたと思う。」との評価をいただく。

*「職員の資質向上や業務に取り組む姿勢はより良い保育や経営上の課題となっていると推察します。専門性を高めるための研修への参加や園内研修を実施する等、職員一人ひとりのスキルアップや職員間の連携強化に繋がるような取り組みを期待する。」という激励のご意見もいただいた。

4. 『保護者への対応及び家庭との連携』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

*「気になることがあった時は報告してもらえるのでありがたい。」「毎日の出来事が知れるような工夫があると嬉しい」「面談の回数が増えてよかった。」「面談が多い。年1, 2回でいい。」「先生と保護者とのやり取りを身近に感じられるといい。連絡ノートの利用など。」「とのご意見をいただいた。

*「LINEやSNS（インスタグラム）等の活用でより迅速に、沢山の情報発信が可能になり、園生活がより保護者に伝わりやすくなり、信頼関係も深まっているのではないかと思います。」

*インスタグラムについて「インスタ、楽しみにしています。」「園の様子を見ることが楽しみなので、インスタグラムの更新頻度を増やしてほしい。」「とのご意見をいただいた。

*「LINEでの連絡はよかった。」「給食メニューをLINEで確認でき便利だった。」「とのご意見をいただいたが、「給食だよりが配布されなかったのがやや不便だった。」「小中学校などのように、お休み連絡やクラスだよりの発信にアプリを使用できるといい。」「とのご意見もいただいた。

5. 『地域社会との連携』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

*「たくさんの課外活動があり、とても充実していてよい。」「自然や地域との関わりは学びの多い経験だと思う。」「留萌管内の様々な施設に足を運び、また防災意識を高める取り組みができており、子どもたちが地域のことを知る機会が持っていることは高く評価する。」「とのご意見をいただいた。

6. 『研修と研究』に関しては、概ね「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

*外部からは見えづらい項目であるため評価なしの方もいらっしゃったが、「自己評価にあるように時代に沿った方法で、今できる事を怠らずに実施している事は理解できた。」「実技や技能的なスキルアップのための研修や研究においては、時間や熱意・探求心が求められるが、職員全体の専門性を高めていくために今後も必要であると考える。」「とのご意見をいただいた。

7. 『情報公開』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

*「インスタ、ホームページ等を活用し、より多くの人に園のこと・園の良さを知ってもらえるように園での日々様子や取り組みを頻度良く、幅広く情報発信していくことを期待しています。」「とのご意見をいただいた。

8. その他

*園児の数は減少しさみしい気持ちもあるが、園児一人ひとりに目が行き届いていると感じ、安心して幼稚園に預けることができる。

*園児の減少が残念。お祈り以外の聖園幼稚園ならではの良さが伝わるといい。

*作品展では、すべてに完成度の高さに感動した。

*年少から年長までみんなで遊んだり、手厚い保育をしていただいたりと、少ないながらの良い雰囲気がある。

*小中学校の行事との兼ね合いや、病休などの取り扱いについて足並みをそろえてほしい。

*特別支援教育の充実に向けて、関係機関で連携を深めていってほしいと思っている。

6. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人（東京）の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。

7. 次年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）が、子ども達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけではなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備を行う。また、各関係機関との連携を取りながら、きめ細かな教育・保育を展開して行く。
- ・小学校へのスムーズな接続と、アプローチカリキュラムの積極的かつ計画的な導入による教育の質の向上を図って行く。就学前に身につけたい事を明確にし、今後も園での取り組みだけでなく、保護者の理解・協力も得ながら進めて行く。
- ・安全な保育環境の整備と見直し、事故・ケガの防止に最大限努める。また、防災訓練や避難誘導訓練を通して、保育者・保護者・園児が非常時に冷静に行動出来る様、その内容についても改善を図っていく。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）を保育者がよく理解し、引き続き、日常の保育の中で積極的に「体作り」に取り組んで行く。また、いろいろな運動を取り入れて行く事で、子ども達が飽きずに活動に取り組める様工夫する。
- ・野菜づくりや給食などの取り組みを通して、食べ物への感謝の気持ちを持ち、みんなで楽しく一緒に食事をする食習慣を身に付けるよう心がける。
- ・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝え、地域社会で生活する人々、働く人々を知る機会を積極的に設け、出来る範囲で関わりを持つ活動を展開して行く。また、「留萌」の良さを子ども達に伝えるため、体験を通して、留萌近郊の自然・施設・味覚（地産品）の素晴らしさを感じる機会を積極的に作っていく。
- ・音楽鑑賞・芸術鑑賞などの情操教育の機会を設け、実際に子ども達が見たり、触ったりする事で、より興味・関心を深める事が出来る様取り入れて行く
- ・情報提供について保護者の要望をくみ取りながら、SNSなどを利用し、スピーディーな発信が出来る環境を整える。
- ・子育てに対する保護者の悩みや不安を真摯に受け止め、一緒に考え、子ども達の健やかな成長の手助けとなれる様、引き続き体制を整えていく。また、相談しやすい雰囲気作りを心がけて行く。
- ・計画的に園内研修を取り入れながら、保育者としてのスキルアップをはかる。各自の研究課題を明確にし、リモート研修などを利用しながら保育技術の共有や継承、連携強化の徹底に努める。また、リモート研修等を有効に活用し、保育者の専門性の習得、園全体の保育の質の向上をめざす。
- ・働き方改革を推進させる上で、職員の勤務体制の見直し、ICTを積極的に活用する。職場内の働き方の問題点を検証し、職員が働きやすく、やり甲斐のある職場環境作りを目指す。また、保育や行事の多角的な見直しにより、保育者一人ひとりが、心に余裕を持って保育にあたることで、子ども達に良い影響を与えることが出来る様に進めて行く。
- ・保護者が安心して子どもを預けられるよう、職員のスキルアップや環境整備を図る。また、長期休み期間の長時間保育により、子どもの年齢差による体への負担を考慮し、無理のない保育を検討して行く。
- ・ちびっこ教室や園舎開放の体制および内容の見直しを図り、未就園児の入会の促進と、園児の増加に繋がるための地域への情報提供を積極的に行い、周知を図る。
- ・子どもたちの園生活の安心・安全のための環境整備として、玄関の電気錠の設置を行い、防犯対策を徹底する。